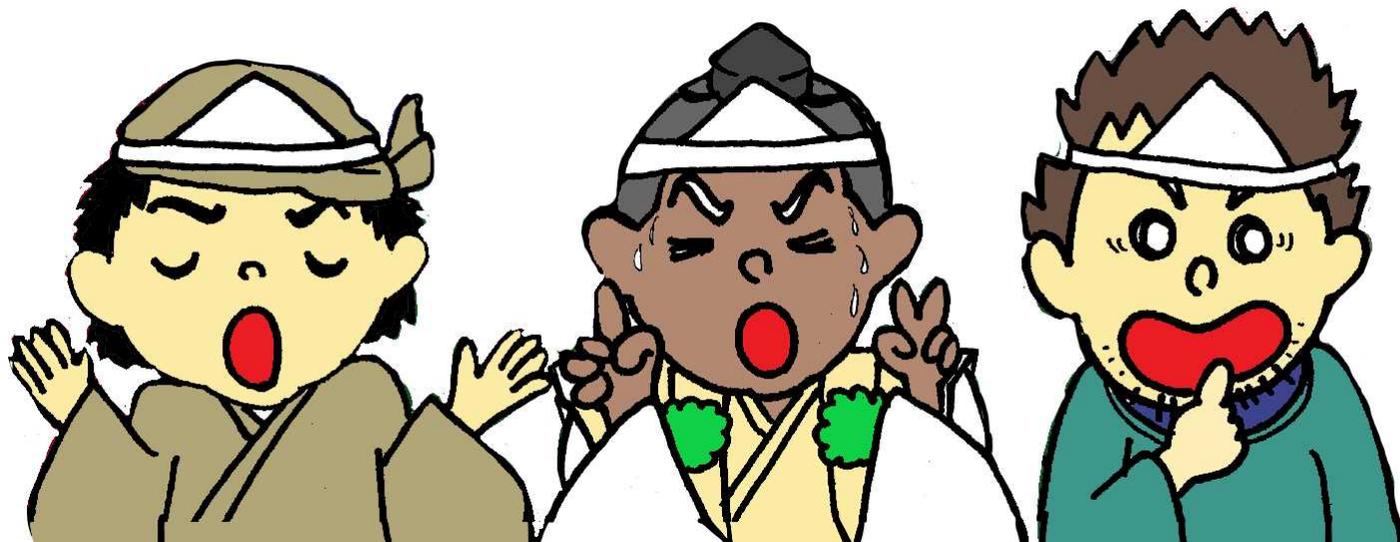


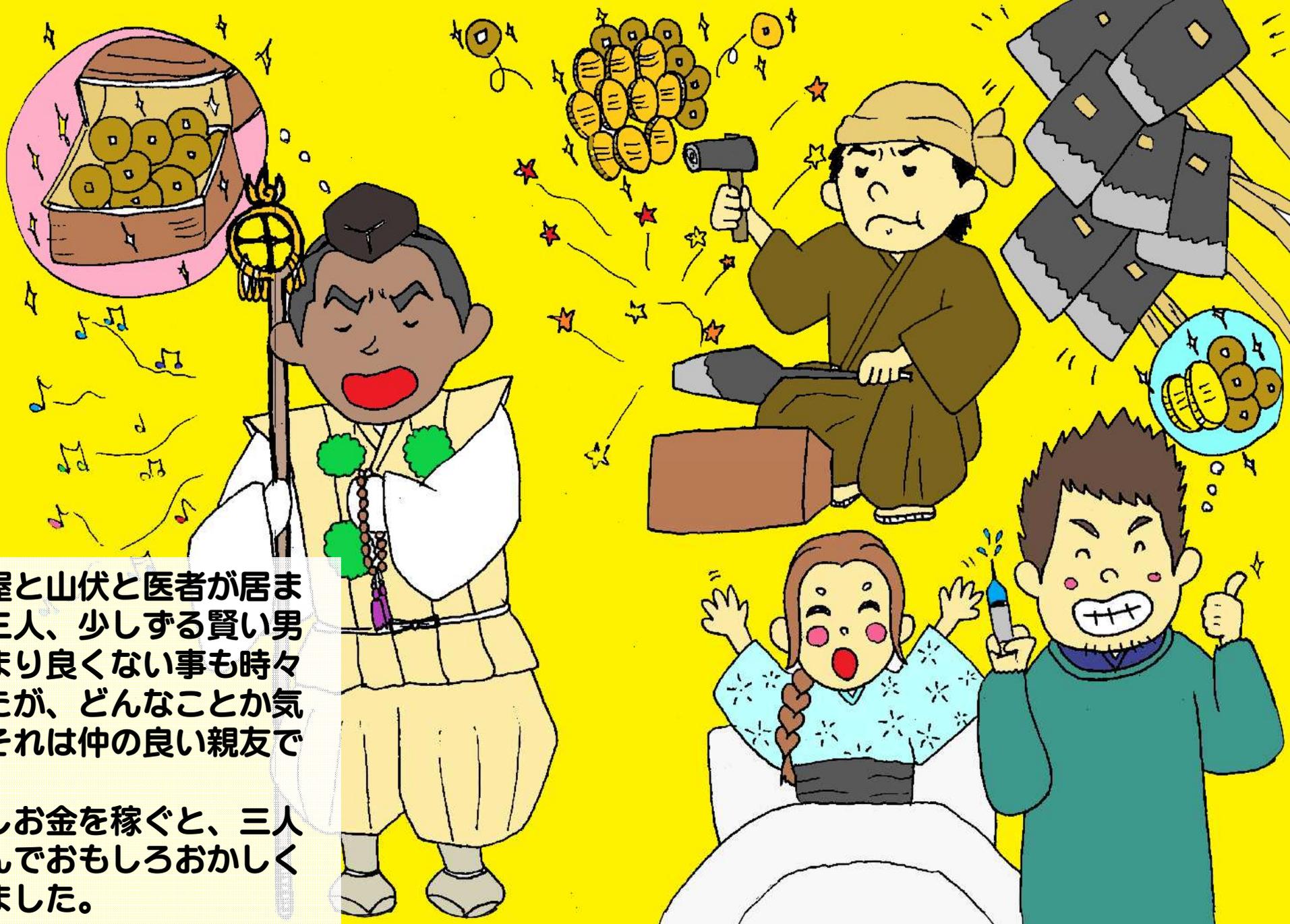
つながるの昔っこ (昔話) ⑩

# モツケの先祖

(標準語Ver.)



国土交通省 東北地方整備局  
岩木川ダム統合管理事務所  
イラスト：やざわ ゆな  
カラーリング：つしま けいこ



昔、鍛冶屋と山伏と医者が居ました。この三人、少しずる賢い男達で、あんまり良くない事も時々していましたが、どんなことが気が合って、それは仲の良い親友でありました。

誰かが少しお金を稼ぐと、三人集まって飲んでおもしろおかしく暮らしていました。

ある日のこと、鍛冶屋が頼まれていた鍬（くわ）十丁を仕上げて、山伏は祭りのご祈祷があつて、医者は金持ちの娘の病気をなおしたとのことで、それぞれ懐が温かくなっていたので、一つ、豪遊することになりました。

三人の男達は、茶屋に上がって、綺麗なお姉さん達を呼んで、飲めや歌えの大騒ぎをしていたら、鍛冶屋が『おい、これから船遊びしよう。船出して船の上で日を眺めて一杯やろう』と言いました。二人共『そりゃいい、そりゃいい』として、三人は船を借りて船に酒や肴だのを積み込んで沖にでました。





日が皓皓と照ってる晩で、三人は船の上で踊ったり騒いだりしているうちに、船がどっと斜めになり、転覆しました。べろんべろんに酔っていた三人ですから助かるわけがありません。三人ともぶくぶくと沈んで死にました。

さて、この三人、死んでからそろって閻魔様のところに来ました。

閻魔大王は赤鬼青鬼を従えて、ジロツと前に並んでいる来たばかりの死人の罪を一人一人糾（ただ）していました。



鍛冶屋の順番がきました。閻魔大王は『鍛冶屋、お前、何もハガネ入れない鎌や鍬を高く売って、百姓だまして苦しめた。お前は地獄行きだ』と言いました。

鍛冶屋は『閻魔様、閻魔様、それは何かの間違いでございます。おらは百姓達にずいぶん尽くしました』閻魔様は『いや、ちゃんとこの閻魔帳についでる。この帳面にはお前たちの生前の行いの善し悪しがちゃんと書いてあるんだぞ』って、鬼達に『さあ、針の山に追ってやれ』と言いました。

『次、山伏。お前は百姓が汗水たらして作った米を只で貰って歩いて、それを町に行って売って、その金で酒を飲んで遊んでばかりだった。山伏にあるまじき所業だ。けしからん奴だ』

山伏『私は百姓のために、ずいぶんご祈祷をしてやりました。売った米で酒飲んだのはたった一、二回でございます。』

『いや、それは嘘だ。ちゃんと閻魔帳についている。閻魔の前で嘘をつくとは太い奴だ。おい赤鬼、これも地獄』

『次、医者』

『私は病氣直して、ずいぶんと人を助けてやりました』

『そうだが、お前、女をだまして子供流したりしたな。生まれてくる生命を奪うのは大罪だ。さあ、山に追ってやれ』





鬼達は鉄の棒をぶんぶん振り回して、三人を針の山に追い立てました。針の山の手前に大きなお堂があって、地獄の針の山に登らされる罪人達はここで詰められて、順番待ちをするのです。

順番待ちをしている間に、それぞれの者達は魂となって、飛んで帰って、家の者達や生前親しくしていた人達の所に行って最後のお別れをしてくるそうです。お前たちも死んだ人の魂が来たのを感じたことあるでしょう。戸を鳴らしたり、鍋釜の音がしたり、夢の中に出てきたりする、あれです。



さて、鍛冶屋も家に飛んで帰って、大急ぎで鉄のわらじ、三足作って戻ってきました。山伏も戻って、ご祈祷の時に使う護符を持ってきました。護符というのは、不思議な力を持ったお守りの事です。医者も戻って、くだし薬をもってきました。

さあ、この三人が針の山に登らされる順番が来ました。鍛冶屋は鉄のわらじを履いて、二人にも渡しました。三人とも鉄のわらじを履いているので、なんなりと針の山を越えました。山の向こうで待っている鬼達はそれを見て、閻魔様に報告しました。



閻魔様も驚いて、  
『そうしたら、あの三人を釜ゆでにしてしまえ』と  
言いました。鬼達は大きな釜に湯をぐらぐらと沸か  
して、三人を引っ張ってきて、その中に入れて蓋を  
しました。



大分、経って『もう煮えただろう』と、蓋を取って見ると、三人共なんともなく、湯に入っていました。山伏が火渡の術や、釜湯かぶりの術などを知っていたので、護符を握って呪文を唱えたら、何も煮えないのでした。『針の山に登って汗をかいたので、湯に入ってさっぱりした』と言ったので、鬼達はびっくりして又、閻魔様に知らせに行きました。



二度もしくじった閻魔大王はかんかんに怒って、三人を引っ張り来させて、今度は自分で次々に三人を呑み込んでしまいました。

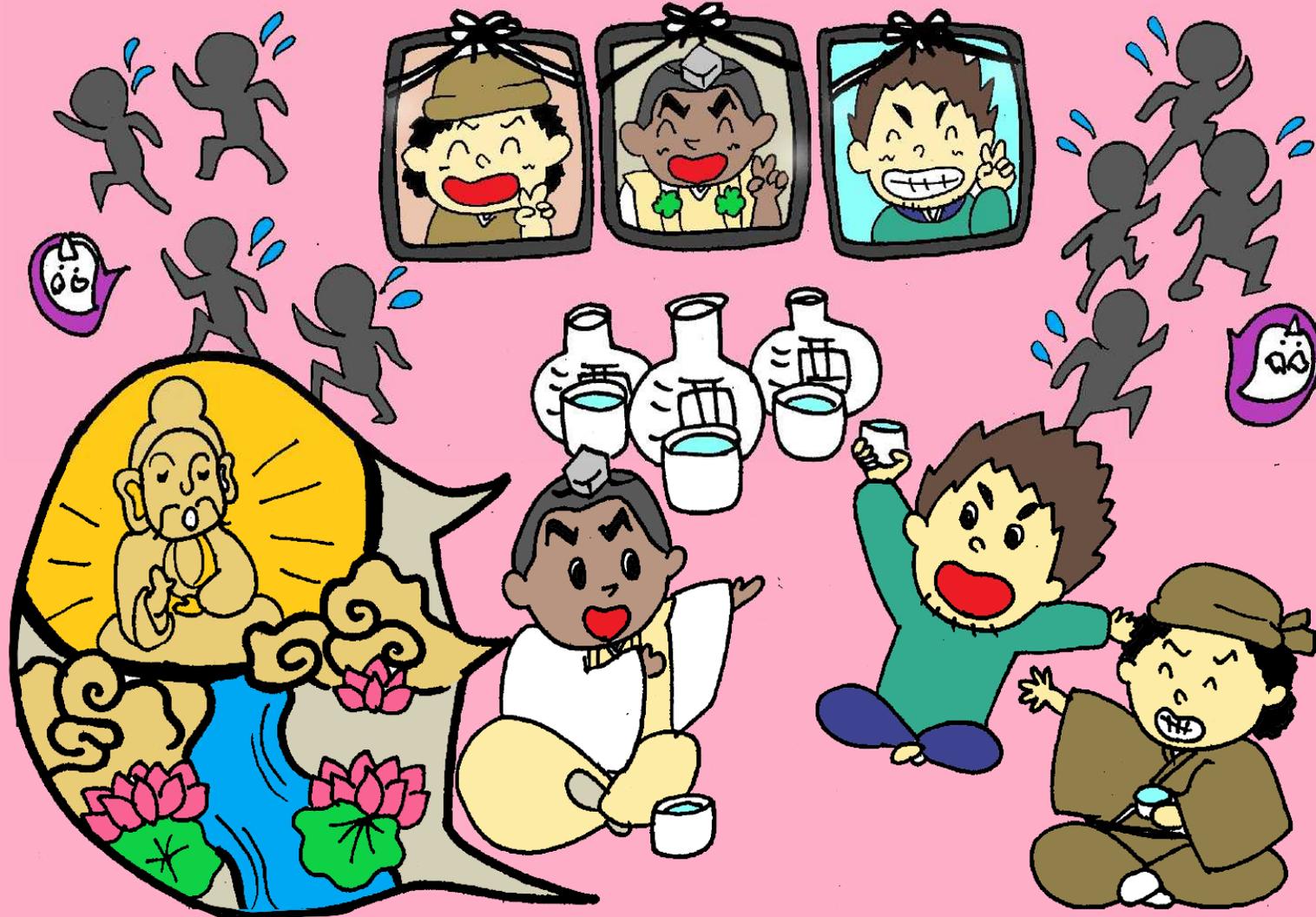


そうしたら、医者が今度は自分の番だと、持ってきたくだし薬を閻魔様の腹の中にまきました。閻魔様は、腹病んで、病んで、とうとう三人を尻の穴からぼんぼと下してしまいました。



出てきた三人をにらみつけた閻魔様は、『こうした奴らは地獄に置かれない。とっとと追っ  
てしまえ』と言ったので、死んだ三人は又、この世に戻ってきました。

この世に戻ってきたら、みんな集まって三人の弔いをしていました。そこに死んだ三人、べろっ  
と戻ったので、いやー集まっていた人達びっくりして『幽霊だ、幽霊だ』って大騒ぎして逃げて  
行ってしまいました。ずる賢い三人は大笑いして『あら、ここに酒肴の仕度ができているな。さ  
あ一杯やるべし』って、酒盛りを始めました。『おもしろくてあったなあ。閻魔のあのつらよ』  
『もう一回死んでみるが』『そうだなあ、今度は極楽に行ってみよう、観音様のつらっこを拝んで  
みたいな』って好き勝手なことを喋っていましたが、さあ、地獄に行きそびれた奴らが極楽に行け  
るかな？



昔から津軽のモツケって言いまして、昔からこうしたとんでもないモツケ達あちこちに居たんで  
しょうね。最近ではモツケ達も小ぢんまりと行儀良くなり、ちょっと淋しい気がします。おしまい。